

自立貢献

あいさつは あふれる笑顔の あいことば

URL <https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/jhs/nishikidai/>

横浜市立錦台中学校 学校だより

発行日 令和3年7月1日(木)

発行者 学校長 古木 喜雅

所在地 神奈川県西寺尾三丁目10番1号

電話 045-401-3644 FAX 045-431-0244

ほめるということ

副校長 綿貫 芳人

最近皆さんは、ほめられたことがありますか。大人になるとめっきりほめられるという経験は少なくなったような気がしますが、子供のころを振り返ってみると今でも鮮明に覚えている場面がいくつかあります。小学校の修学旅行で日光へ行った時の夕飯の時でした。お代わりをしようとお椀を宿の方に差し出すと、「ご飯粒を残さず食べてえらいわね」とか、近所で野球のボールで壁ぶつけをしていると知らない男の人が、「小学5年生にしてはとてもいいボールを投げるね。」など思いがけずにほめられたいくつかの経験は今でも心に残っています。何十年も昔のことを今でも鮮明にその場面を覚えているということは、よっぽどうれしかったのだと思います。

脳卒中リハビリの分野では、傷ついた脳の回復を助けるのに一番の方法は“ほめる”ことだそうです。リハビリの際にほめられるかどうかで、改善のスピードが大幅に違うということが研究成果として注目されています。研究のリーダーであるブルース・ドブキン教授は、こう言っています。「脳はいつもほめられたがっています。これは脳が自らをより良いものにするための基本的なシステムです。私たちが調べるかぎり、国籍や人種、文化にかかわらず同じシステムを、私たちの脳は持っています。だからこそ、周囲の助けが必要です。その人の成長を見つめ、より良い方向に行ったときにそれを気づき、ほめてくれる人が、必要なのです」

人はほめられれば誰でもうれしい気持ちになります。その結果、自信がついたり、自尊心が育まれたり、自分が認められたという気持ちにつながります。日常の人と人との関わりの中で、相手を素直に認めほめる行為というのはとても大切なことである、ということに気が付かされます。また、生徒たち(子供たち)に対しても日常のなんでもない会話をする中から、“ほめポイント”を見つけ出し、その努力やプロセスを具体的にほめていこうとする態度が私たち教職員(大人)に求められているのだらうと思います。タイミングや内容を的確にとらえたほめ言葉は、人を変える魔法の言葉となるのではないのでしょうか。